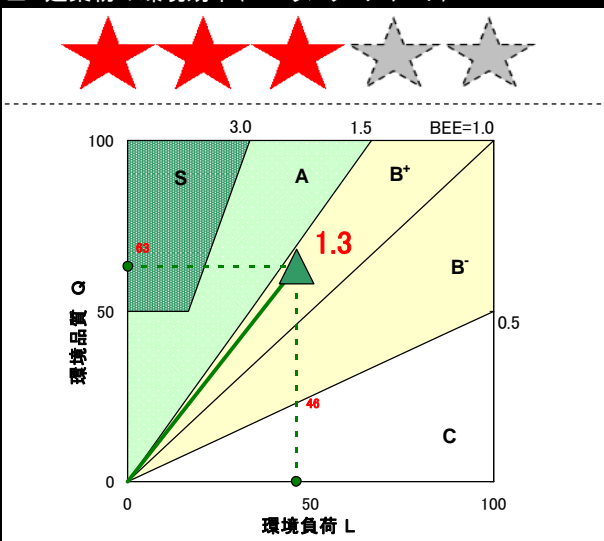


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	山都町立蘇陽病院	階数	地上3F	
建設地	上益城郡山都町滝上476-2	構造	RC造	
用途地域	なし	平均居住人員	57人	
気候区分	地域区分II	年間使用時間	8,760時間/年	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2012年8月 予定	評価の実施日	2011年3月29日	
敷地面積	7,154 m ²	作成者		
建築面積	2,252 m ²	確認日	2011年3月1日	
延床面積	4,408 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.3

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

87%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

84

評価点

84

■ 重点事項総合評価

- 【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進 81.2
- 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現 76.2
- 【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全 97.5
- 【重点事項4】 循環型社会の実現 81.7

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE新築(簡易版)2010年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	山都町立蘇陽病院		階数	地上3F
建設地	上益城郡山都町滝上476-2		構造	RC造
用途地域	なし		平均居住人員	57人
気候区分	地域区分Ⅱ		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年8月	予定	評価の実施日	2011年3月29日
敷地面積	7,154 m ²		作成者	
建築面積	2,252 m ²		確認日	2011年3月1日
延床面積	4,408 m ²		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 87%

③上記+②以外のオンサイト手法: 87%

④上記+オフサイト手法: 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.6

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 84

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 81

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 76

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 98

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 82

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

患者・スタッフの両方の視点に立った環境を整備した「地域密着型医療」の提供を行なう。

Q1 室内環境

病室は各室での温度管理が可能なように個別空調方式を採用。

Q2 サービス性能

- ・給湯管にはステンレスを採用する等、長寿命に配慮。
- ・OP系統空調設備等重要室の空調喚起設備はG回路としている。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・給湯管にはステンレスを採用する等、長寿命に配慮。

LR1 エネルギー

- ・高効率機器類（Hf照明器具、変圧器）や人感センサー、LED照明器具の採用により電力使用量の削減に努めている。
- ・建物屋上に太陽光発電パネル(32kW)を設置。

LR2 資源・マテリアル

節水型衛生器具の採用、厨房排水の便所洗浄水への二次利用など上水インフラへの配慮

LR3 敷地外環境

オール電化病院、再生木デッキの使用

その他

CASBEE新築(簡易版)2010年版
山都町立蘇陽病院

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE新築(簡易版)2010年版
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.5
Q1 室内環境					0.40			3.2
1 音環境				3.0	0.15	3.1	1.00	3.0
1.1 騒音				3.0	0.40	3.0	0.40	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	1.00	
1.2 遮音				3.0	0.40	3.3	0.40	
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	0.60	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境				3.3	0.35	3.0	1.00	3.3
2.1 室温制御				3.7	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
3 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43	
4 ゾーン別制御性		病室はルームエアコンを使用		5.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				3.0	0.25	2.5	1.00	2.9
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	0.60	
2 方位別開口				3.0	0.40	3.0	0.40	
3 昼光利用設備				3.0	0.30	3.0	0.30	
3.2 グレア対策				3.0	1.00	3.0	1.00	
2 昼光制御				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.3 照度				3.0	0.25	1.0	0.25	
3.4 照明制御				3.0	0.25	1.0	0.25	
4 空気質環境				3.5	0.25	3.1	1.00	3.4
4.1 発生源対策				3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気				3.5	0.30	3.3	0.38	
1 換気量		法定換気量の1.2倍を確保		4.0	0.50	4.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	0.50	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				5.0	1.00	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.8
1 機能性				3.9	0.40	4.6	1.00	3.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性				-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応				3.0	1.00	-	-	
3 バリアフリー計画				4.0	0.30	4.0	0.40	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	4.0	0.50	
1 広さ感・景観				-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				4.0	1.00	4.0	0.50	
3 内装計画		パース及びサンプルボードを作成する等にて検討		5.0	0.30	-	-	
1.3 維持管理				5.0	0.50	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		ゾックスの床材、外壁材に低汚染型塗装等を採用		5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		清掃員控え室や清掃用具を各所に配置		5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.7	0.31	-	-	3.7
2.1 耐震・免震				3.8	0.48	-	-	
1 耐震性		重要度係数1.25を採用		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		品確法の等級を2を確保		4.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		15年以上に設定		4.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			4.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備	災害時にも持続可能なシステムを確保	5.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	災害時にも持続可能なシステムを確保	5.0	0.20	-	-
3	電気設備	自家発電容量3日分を確保	4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法	耐震クラスAを確保	4.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.6	0.29	3.4	1.00
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	3.8	0.50
1	階高のゆとり	病棟階高4.0m	5.0	0.60	5.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	耐震壁はコア周りに集約し間仕切変更に対応可能に	4.0	0.40	2.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性	主要設備機器の更新を考慮	5.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		馬見原の町並みに合わせた色彩計画	5.0	0.40	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地場産建材を積極的に採用	4.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.2
1 建物の熱負荷抑制			2.0	0.30	-	2.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.20	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	自然採光・通風の確保	4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光パネルを採用	4.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率機器の採用	4.0	0.30	-	4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERRI=16.4%	4.0	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.0
1 水資源保護			3.8	0.15	-	3.8
1.1	節水	節水型器具の採用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.6	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	雨水の中水(トイレ)利用	4.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63	-	2.9
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		LCCの削減	3.5	0.33	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
2.1	大気汚染防止	オール電化病院	5.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		-	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

熊本県重点評価結果スコアシート

0

建物名称 山都町立蘇陽病院

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		83.6
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				81.2	0.40	32.48
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	2.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				76.2	0.20	15.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				97.5	0.20	19.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	5.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				81.7	0.20	16.34
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④)の項目

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数